

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Parental educational level and childhood wheezing and asthma: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

社会経済要因・住環境と子どもの喘息発症との関連

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2021 DOI: 10.1371/journal.pone.0250255

筆頭著者名: 西條 泰明

所属UC名: 北海道ユニットセンター

目的:

母親と父親のそれぞれの教育歴を同時に考慮した場合の子どもの喘息への影響については十分に検討されていなかった。本研究では母親と父親のそれぞれの教育歴の子どもの喘息・喘鳴(ぜんめい:呼吸をするときにゼーゼーと音がすること)への影響について明らかにすることを目的とした。

方法:

妊娠時のアンケートにより両親の教育歴を、子どもの3歳時のアンケートにより子どもの喘息および喘鳴の状況の有無を把握した。両親の教育歴および子どもの喘息・喘鳴に関わるものを調整した多変量解析(ロジスティック回帰分析)という統計解析方法によって、両親の教育歴と3歳時の喘息および喘鳴との関連を調べた。

結果:

69,607組の両親と子どもを対象とした。母親の教育歴が10-12年(高校卒業程度)と比較して、9年以下(中学卒業程度)の場合の子どもの3歳時の喘息のリスクは1.2倍高かった。また、13-15年(短期大学・専門学校卒業程度)および16年以上(大学卒業程度)の場合の子どもの3歳時の喘鳴のリスクはそれぞれ1.2倍および1.1倍高かった。

考察:(研究の限界を含める)

母親の教育歴が短い場合は子どもの喘息のリスクが上昇し、逆に母親の教育歴が長い場合は子どもの喘鳴のリスクが上昇していた。本研究ではその理由を解明するだけの情報は得ていない。大気汚染などの環境要因を調整しきれていないことと、喘鳴の有無は保護者の観察により得られた情報であることが本研究の限界となった。

結論:

母親の教育歴が短い場合は子どもの喘息のリスクが上昇し、逆に母親の教育歴が長い場合は子どもの喘鳴のリスクが上昇する結果となり、研究では考慮できなかった要因が影響している可能性が考えられた。